

熊本県、かく戦えり！

熊本地震

「準備と教訓」

熊本県
初代危機管理防災企画監
(現 特別顧問)



©2010熊本県くまモン

1 熊本地震の被害状況



2016年(平成28年)4月14日前震、4月16日本震
— 日本観測史上初めての震度7連鎖地震 —

☆ 熊本地震

震度7は全国で7回、うち2回がこの熊本地震

最大18.3万人の避難者、住家被害19.8万棟、余震4.5千回



何かが来る……

ここから始まった。



南阿蘇村阿蘇大橋付近の被災状況

阿蘇大橋落橋

地震前



地震後



文化財の被災状況（熊本城・阿蘇神社）



熊本城



奇跡の
1本櫓



阿蘇神社

倒壊家屋の状況



ある学生寮の被災状況

4名救出するも、
死者3名



県防災として、災害対応上の

2 準 備



平成26年（熊本地震2年前）から

減災オペレーションという概念を導入

- 思考過程の整理
- 指揮台と3つの調整台
(情報処理・活動調整・ヘリ<航空>運用)
- 5Dシステム(MAP版)、
状況判断、コマンド訓練



(→ 新防災センター、オペレーションルームへ継承)



災害対応時における危機管理監等指揮者の意思決定の流れ

情報収集

判断
材料
の
収集

〈多元的(事前)情報の入手〉

関係機関、媒体
防災情報ネットワーク
熊本県版タイムライン

〈マニュアルの確認〉



← 〈現場情報の入手〉

縣市町村情報、部局情報、部隊・機関情報、媒体情報

状況判断

判
断

〈MAP版**指揮台5Dシステム**による思考の整理〉

被害状況(特に、人的被害)、気象、地形、部隊の装備・動き、物流、
未来予想から考察し、総合的に判断



意思決定

指
示

**対策・処置
の案出**

特に72(24)時間対応と部隊運用



指揮台 (※)

(気象台情報を含めて、**5D思考**の材料を整備)

経過図(現状累積被害)

ハザード図(予測)

調整台→指揮台に変更

指揮台

情報共有用赤・青トレイ

スタンプ式状況把握付箋紙

各種地図の活用

状況図(被害状況)

月

行動図(部隊等の動き)

更新時間表示

※ 新オペレーションルームには、情報処理台・活動調整台・ヘリ(航空)調整台を併設

熊本地震での 3 教訓（課題） と 解決策（提案）

指揮台を使つての訓練による対応力向上により
県救命救助パ^レーションでは減災

しかし、下記事項は混乱（課題）

- 市町村レベルでの意識・対応力の差
- 備蓄、物資運搬、罹災証明、避難所運営などの行政事務



【当時の教訓（課題）】

< 県 >

- 風水害訓練への偏重（発生前年度に初めて地震対応訓練を実施）
- 罹災証明などの具体的行政事務研修の未実施

< 市町村 >

- 上席（幹部）自身の意識や訓練不足
- 職員数の不足
- 防災リーダーの不在と訓練不足
- 職員による避難所運営の限界

< 国 >

- 統制なき資料の要求（各省庁ごとに要求）
- 誤った内閣への報告による国県市町村の混乱
- プッシュ方式は有効だが、倉庫・職員不足の中、単品・大量の拠点配分は問題



【 課題解決の例 】

□ 組織改編

- 指揮者は1人
- 担当課は5機能（総務、企画、訓練、実動、通信）

□ 教育・訓練・オペレーション

- 減災オペレーション訓練の強化（指揮台などの普及含む）
- 防災監の増員、区市町村間訓練・研修の充実
- 業務別6訓練（罹災証明など）の開始

□ 情報収集・通信

- 新情報共有システムへの状況判断支援機能の組入れ

□ 処理環境の整備

- インデックスマニュアルの作成
- 災害対応工程管理システム（BOSS）の共同研究と導入

□ 新防災センターの建設

- オペレーション機能、機関との共同などの充実 などなど



以上だモン

